

表 ミカン粕の添加が鶏卵の品質に及ぼす影響

調査項目	無添加	ミカン粕添加 <sup>※1</sup>
卵重 (g)	59.8	59.9
日産卵量 (g)	56.3	56.6
卵殻強度 (kg)	3.7	3.9
卵黄色	13.3	13.4
ハウユニット <sup>※2</sup>	77.4	83.5

※1 産卵中期～後期（374～408日齢）にミカン粕を添加

※2 ハウユニットとは卵重と濃厚卵白の高さから求める値で高いほど鮮度が良いことを示す

# ミカンジュース粕

## 鶏の暑熱ストレスに

## 抗酸化活性で効果

現場で使える！研究成果



鶏は暑さに非常に弱く、暑熱ストレスによる産卵成績や鶏卵品質の低下がみられる。さらに、

最悪の場合は鶏が死亡することもあり、経済的損失が大きくなることから、鶏の暑熱ストレスを緩和することが重要だ。対策の一つとして抗酸化資材の給与が有効とされており、今回は県内で排出され、高い抗酸化活性があるミカンジュース粕<sup>※</sup>写真<sup>※</sup>に着目した。これまで畜産研究部門

での試験において、暑熱期の採卵鶏に同粕を乾燥・粉碎して給与することで、鶏卵の品質を高くできることが明らかとなっている。そこで暑熱期の生産現場における効果を検証するため、県内の採卵鶏農場での実証試験を行った。

その結果、同粕を3%添加した配合飼料を給与することで、畜産研究部門での結果と同様に鶏卵の品質（ハウユニット<sup>※</sup>）卵白の盛り上がり具合から求める鮮度指標<sup>※</sup>を向上させる傾向があった<sup>※</sup>表。さらに同粕を給与した鶏卵を2週間冷蔵保存したところ、鮮度の低下を抑制できる可能性が認められた。

なお、同粕を供給できる期間は10月から2月までなので、暑熱期に利用する場合は乾燥して保管する必要がある。

（農林技術開発センター）